

(第76回) 事業評価分科会の評価結果について

NO. 3-2	事業名 : アジア省エネルギー型資源循環制度導入実証事業 (終了時評価 / 事業評価) 環境部			
事業期間 : 2016年度～2022年度の7年間		費用総額 : 7.8億円		
委員構成、ポートフォリオ	委員名		NEDO委員歴	
			前身事業	事前評価
<p>本事業では、相手国において適切な資源循環制度が構築されるよう、我が国の自治体等が過去に実施してきた環境負荷を低減させるノウハウを政策対話等を通じて提供するとともに、実証事業を通じてその有効性を検証し、アジア広域での省エネルギー型資源循環制度の実現を目指す。評価の連続性から中間評価を担当された委員を軸に、海外実証がメインとなることから、アジアのリサイクルビジネスに精通された方を中心に委員選定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分科会長は、2018年の中間評価で分科会長代理を務め、対象となる金属類の資源循環に深い知見を有する方を選定。 委員は、金属資源マテリアルフロー分析、アジア地域におけるサーキュラーエコノミーの専門家に加え、事業化の観点からエコノミーファイナンスの専門家、ユーザー視点でアジアでリサイクルビジネスを展開している事業者を選定。 	柴山 敦 分科会長 秋田大学大学院 国際資源学研究所 教授			○
	松八重 一代 分科会長代理 東北大学大学院 環境科学研究科 教授			○
	佐々木 創 委員 中央大学 経済学部 教授			
	竹ヶ原 啓介 委員 株式会社 日本政策投資銀行 設備投資研究所長			
	山本 淳 委員 DOWAIシステム株式会社 取締役 海外事業推進部長			
評価コメント				
<p style="text-align: center;">肯定的意見</p> <ul style="list-style-type: none"> アジア諸国における資源循環法令の検討が進んでいる状況において、非常に意義のある事業であったと考えられる。また、技術導入だけでなく制度構築支援を伴い、民間企業への対応には限界があること、及びNEDOの知見・経験を生かした事業推進が必要であることから、NEDOが実施する必要性は明らかであった。 海外・国内実証を含め、事業の実施計画、実施体制は効果的に構築され、かつ、実施方法も適切であり、成果獲得につながる実証試験が行われた。また、相手国の政府側に本事業に関する理解促進と現地のニーズを引き出すことに成功しており、NEDOが果たした役割及び貢献は大きかったといえる。 相手国の国内事情など条件が大きく変化するなかで、粘り強く調整を進め、ELV、WEEE両事業ともにMOUを締結し、技術実証を通して適正な資源循環システム構築への端緒を開いたものと考ええる。 	<p style="text-align: center;">今後への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> アウトカム目標達成への取組として「近隣国への横展開を行い、事業拡大を目指す」としているものの、結果としてタイのみで実施することになった点は改善の余地があり、他のアジア諸国における実施拡大に向けた知見も得られるような事業の進め方も検討できればなお良かったものとする。 個別テーマの実施に当たっては、ビジネスモデルを構築する上で、事業規模の具体化は重要であり、コスト分析を含め、事前の条件設定をもう一步踏み込んで検討することにより、実証内容の汎用化や横展開あるいは効率性を評価する際の活用に期待できる。 今回の実証事業だけでは、具体的な事業モデルが描けておらず、採算・収益面を定量化するための考察、検証が不足していたと思われる。 今後、類似の事業を進める際には、制度構築支援の点でもう一步の関与が望まれる。 			